

【令和7年度 卒業式 式辞】

窓の外を見ると、釜臥山にはまだまだ雪が残っていますが、確かな春の訪れが感じられる今日のこの佳き日に、多くの御来賓の方々、保護者の皆様に御臨席いただき、卒業式を執り行えますことを心から嬉しく思います。

保護者の皆様、改めましてお子様の御卒業おめでとうございます。ここまでの十数年間、苦しいことや辛いこともあったと思いますが、いつも正面からお子様と向き合い、大きな愛情で育てこられた皆様の喜びは一入だと思えます。ここまで本当にお疲れ様でした。そして3年前、この田名部高校にお子様を入学させていただいたことに、いま改めて感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。「斗南の土のしたわしく」、「宇曽利の水の浄らなる」、「釜臥の山嶺しるく」…。何か分かりますね。この校歌をこの体育館で歌うのも今日で最後になりますが、どれも皆さんが高校生活を過ごした、むつ・下北の情景を描いています。

この自然豊かな街にある「白亜の学舎」で過ごした時間を振り返ってみてください。高校入試のときの緊張感、合格発表で番号を見つけ、家族や友人と抱き合って喜んだ瞬間、そして入学してからの「それれにしか無い3年間、4年間」。嬉しいときも、楽しいときも、辛いときも、悲しいときも、皆さんはいつも「ラウエの象徴胸にして」ここまで歩んできたはずです。

始業式や終業式で私はいつも皆さんにこんな話をしていました。「ここにいる全員がそれぞれに間違いなく大きな可能性をもっている」「自分の可能性を信じて」「それぞれのペースで構わないから」「少しずついいから」「いまの自分より前に進もう」そういう気持ちで一日一日を大切に過ごしてほしい。覚えてくれていますか？

このことは、これからも変わりません。いま、皆さんは新たなスタートラインに立っています。全日制162名、定時制11名の皆さんが進む道は、方向も、これから待ち構えているハードルの数も高さも、目指すゴールも全く違うでしょう。でも、それがどんな道であっても、どんな状況になっても「少しでもいいから前に進もう」その気持ちを忘れないでください。

あまりの道の険しさに心が折れそうになることも、分かれ道でどちらに行けばいいか迷うこともあるでしょう。その道を選んだことを後悔することも、引き返さざるを得ないこともあると思います。でも、大丈夫です。皆さんには田名部高校で積み重ねてきた経験と逞しい心があります。何度失敗しても、何度引き返しても、その度に新たに目標を定めて果敢に前進してください。

どんなに辛くて苦しいときも、皆さんを支えてくれる家族や友だち、先生方がいます。「親元を離れたら終わり、卒業したら終わり」ではありません。必要なときはいつでも頼ってください。「若き生命に光あり」「学びの道のつくるなし」これからも173人の皆さんが、それぞれに光を放ち、輝き続けながら、終わることのない学びの道を「ラウエの象徴を胸に」堂々と歩いて行ってくれると信じています。

私がこの田名部高校で皆さんと一緒に過ごせたのはたったの1年です。話したことがない人もいます。でも、こうしていま、「晴れやかな日を迎えた皆さんの笑顔」、「それを見守ってくださっている保護者の方々の優しい表情」、そして「緊張の呼名を終えてホッとしながら皆さんを見つめる担任、年次主任をはじめとする先生方の姿」を見ることができて本当に嬉しい気持ちで一杯です。

最後に、皆さんは、むつ・下北はもちろん、青森県の宝です。田名部高校での様々な経験を通して身につけた、簡単に壊れることのない「逞しくてしなやかな心」で、次のステージでもその力を存分に発揮してくれることを期待して、そして何よりも、皆さんが元気でいてくれることを心から祈って式辞といたします。卒業おめでとう。

令和8年3月1日(日)
青森県立田名部高等学校
校長 山田 昭